

## 令和3年度 第1回南島エコツアーリズム利用検討作業部会 議事録

日時： 令和3年6月30日 午後3時00分～午後5時15分

会場： 奥村交流センター 2階

出席： (以下敬称略)

小笠原村観光協会	石井 亮
	石井 裕一
小笠原ホエールウォッチング協会	辻井 浩希
小笠原野生生物研究会	金子 隆
小笠原自然文化研究所	佐々木 哲朗
小笠原自然観察指導員連絡会	深澤 丞
NPO 法人エバーラスティング・ネイチャー	田中 秀侑 (大久保氏代理出席)
国交省小笠原総合事務所	永井 公彦
環境省小笠原自然保護官事務所	若松 佳紀 (成田氏代理出席)
林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター	尾山 真一
東京都小笠原支庁	田中 裕 (大塚氏傍聴)
小笠原村教育委員会事務局	持田 憲一

事務局 小笠原村産業観光課	大津 源 (事務局長)
	柏木 徹
	小野寺 将嘉

【議事】 (以下敬称略)

### 1. 南島利用に関するパンフレット (東京都作成) の改定について

○田中 (裕)

都と村で南島および石門のエコツアーリズムを始めて来年度20周年を迎えるにあたり、東京都で作成している南島利用に関するパンフレットを改定しようと考えている。来年度、案を作成した段階で皆様に意見を聞く場を設け、配布しやすい形状等検討していきたい。また、昨年11月と12月に観光協会・支庁・ガイドの皆様で転石の改修を行った。作業中、一部ラピエを削ってしまった。パンフレットの改訂版では、自然のラピエの部分と転石箇所等、南島の天然記念物としての価値という点についても、落とし込んでいきたい。

- 柏木  
パンフレットの配布対象はどのように考えているのか。
- 田中（裕）  
観光客向けの方がいいかと考えている。ガイドの皆様が観光客に渡しやすいものがいいかと思っているが、ご意見をいただきたい。
- 石井（亮）  
南島ドルフィンスイム委員会でも話をしているが、まだ具体的には意見がまとまっていない。
- 持田  
ツアーの現場で使うものなのか。
- 田中（裕）  
ツアー終了後配布するイメージ。
- 持田  
ツアー前だと、くしゃくしゃになってしまう。スマホ等の媒体で提供できると、観光客にとってもいいのでは。
- 金子  
紙媒体で需要があるのは行政視察。
- 石井（亮）  
行政視察で使用するような資料を作るのか、観光パンフレットの的なものを作るのか、その辺り目的がはっきりしていると意見も出しやすい。
- 田中（裕）  
個人的には後者がいいと思っている。
- 深澤  
デジタルコンテンツの方が利便性など踏まえ、今後の方向性に合っているのでは。
- 田中（裕）  
紙媒体だけではなく、デジタル媒体等も並行して考えていきたい。
- 佐々木  
何年か前に、過去の自然再生事業の振り返りの際パンフレットを作っていた。IBO（小笠原自然文化研究所）としては、あの内容は良かった。観光で使用できるかはわからないが。
- 石井（亮）  
ガイドの中でも、過去の写真と比較できる写真を掲載して欲しいとの意見が出た。
- 柏木  
令和4年度完成とのことで、進捗等については適宜共有していただきたい。

## 2. 上陸場所 C 地点のラピエの破損について

○柏木

令和2年4月に IBO が調査をされ、上陸場所 C 地点についてラピエの損傷が確認されたとの情報提供があった。3月5日の時点では確認されておらず、3月5日から4月16日の間で破損されたと推測される。原因についてはわかっていないが、5月19日付けで事業者向けおよび村民利用者向けに注意喚起を行った。今後も適宜注意を呼び掛けていく。

○深澤

写真では見にくいので、具体的に説明して欲しい。

○柏木

C 地点正面側で、幅は40cm程度と聞いている。事業者さん曰く、接岸時に船の舳先が当たる場所ではないとの意見も聞いている。

○永井

去年の秋頃に観光協会から話しがあった、既設のブイの改良と関係あるか。

○柏木

位置的には違うと思う。定期的に注意喚起をしていこうと思う。

○金子

去年の春の話しだが、その後モニタリング等行っているのか。

○柏木

定点的なことは行っていないが、浸食が悪化しているということではない。

○石井（亮）

写真からは変化はないかと思う。船の舳先が当たる場所ではないので、船の衝突というよりも、踏圧等の影響ではないか。

○佐々木

A 地点も含めて約5年間対策を打たれてきた中で、「気を付けられること」と、「気を付けられないこと」があると考えている。本件は、原因がわかっていない中で、気を付けられることなのか。

○柏木

踏圧による影響、資材を落とした等、色々と考えられるが、大きなショックを与えないように気を付けるということ。

○佐々木

南島は歴史の中で出来た地形が価値であり、天然記念物である。南島の地形に関しては、エコツーリズムの中心であり、一番気を付けないといけないポイントであると思う。原因がわからない中、「気を付けましょう」で終わらすのは、南島部会としては機能不全になっているのではないか。わからないのであれば調べるべきであり、調べた上で、再発のリスクが低ければ注意喚

起でいいが、まだそういう段階ではないのではないか。南島のエコツーリズムは基本的に非常に上手くいっている代表的な島だと思う。利用者が安全に利用できるための検討部会であるし、調べる必要がある。この他にも損傷の恐れがあること等整理して、この場で議論を進めていくべき。

○柏木

原因調査の具体的な手法等、考えはあるか。

○佐々木

具体的にはわからないので、まずは、主だったメンバーで見ることから始めるといいのでは。

○柏木

考えられる行為については注意喚起をするが、まずは現地を見てということか。

○佐々木

今回、久しぶりに南島部会が開催されたが、課題の抽出等、全体点検する機会があってもいいのではと思う。

○柏木

一度全部会員で視察に行くことも検討する。

○深澤

初動で何か対応したのか。

○柏木

4月20日に小笠原支庁より事象発生についての連絡を受け、拡大可能な解像度の写真画像等の確保や内容の調整等、周知文作成に時間がかかってしまった。

○深澤

人為的な事なのかは分からないが、事例があった直後に動けば、もっと原因が解明されたのかもしれない。迅速に動ける体制を作ることが必要なのでは。

○石井（亮）

C地点以外についても、状況変化の調査をした方がいいのでは。安全に利用できるように、全地点のモニタリングが必要。ガイド委員会の中では、損傷させないで安全に利用するのであれば、船をつける場所に人工物を設置する等の意見も出ていた。天然記念物をそのまま利用するのか、損傷させないように利用していくのか、考えていただければと思う。

○佐々木

人工物を追加する選択肢はあるのか。

○柏木

現段階では想定していない。場所の事情も踏まえ、出来ることと出来ないこ

とがある。他の地点の損傷状況の把握も検討しており、A地点については詳細に把握する必要を感じている。年2回程度の計測を検討しており、調査結果からの取り組み等については議論が必要である。人工物は色々な意見が出ると思うが、引き続き相談させてほしい。

○佐々木

そういう意味でも、現場をみる必要がある。I B Oの意見としては、必要なものであれば、人工物もありだとは思っている。

### 3. カツオドリの営巣について

○柏木

令和2年4月頃から新型コロナの影響で南島の利用が激減し、鮫池上陸地点でカツオドリの営巣が確認された。関係機関に相談し、カツオドリの営巣に配慮する形で利用する旨通知し、利用することとした。7月の長雨等の影響か、巣立ちまではいかなかったが直前までは上手くいっていたので、良い事例だったのではと考えている。また、今年の5月GW後についても、B地点のほぼ同じ場所で営巣を確認した。昨年同様に関係機関に相談・情報収集し、同様の対応を行った。(6/29 写真回覧)

○大塚

現在巣は1つ増え、2つある。

○柏木

経路上に2つあるのか。

○石井(裕)

座っている2羽が、それぞれ別のペア。

○柏木

警戒行動等は見られるのか。事業者さんから気づいた点等あるか。

○石井(裕)

特にはない。近づかないように上陸している。

○柏木

状況変化等あったら、適宜情報共有してほしい。

○持田

鳥にどいてもらう時期は過ぎているのか。B地点だから迂回することができるが、例えば東尾根の真ん中だったりしたら迂回できない。抱卵していたら動かせないが、迂回することによる周囲の環境への影響も考えるべきではないか。普通種の鳥に対して、どこまで配慮するのか。南島は鳥の繁殖地でもあるが、地形地質の天然記念物であり、迂回によって地形が変わることの方が、天然記念物という観点では大きな毀損となる。今後のために、アイデア

を持っておいた方がいい。

○佐々木

鳥の自然環境モニタリングをやっていて、オナガミズナギドリ等地中に営巣するタイプは上手く付き合っていけるが、カツオドリは地表で営巣するため、人が通ると繁殖が上手くいかない可能性は十分ある。また、攻撃的になり利用者の怪我に繋がるのが心配。今年度中に協議会としての対処を決めた方がいい。IBOとしては、上手く移動させることに関しては良いと思う。

○大津

都と村で締結している「適正な利用のルール等に関する協定書」の中で「植物、動物、木片類、石など自然に存在するものはそのままの状態にする」を根拠としているが、協議して変更することも可能であれば、検討したいところである。

○田中（裕）

巣の撤去等は既に行っている実績もあり、柔軟な対応はできると思う。抱卵の前に誘導が出来れば、こういった問題は発生しないのではと思う。

○柏木

巣を作らない何かを作るか。

○金子

デコイや石でも置いてみるか。

○柏木

石を置くことは、天然記念物的に問題あるのか。

○持田

置くのみであれば問題ないと思う。

○佐々木

カツオドリの営巣抑制については、IBOでも検討してみる。

○田中（裕）

自然公園法や鳥獣保護法の観点ではいかがか。

○成田

設置されるものによっては（デコイ等）自然公園法の許可が必要になる可能性があるので事前に調整させていただきたい。

○佐々木

南島の利用のルールは、誰に向けたものなのか。

○田中（裕）

観光向けと認識している。

○柏木

いろいろと意見が出たが、現場を見つつ検討を進めていきたい。

- 持田  
カツオドリ営巣時にはどいてもらう方針でいいのか。
- 佐々木  
条件はあるかと思うが、その方針でいいと思う。
- 柏木  
抱卵前にどかすのがベストか。
- 持田  
今後の状況についても、協議会と事業者等、密に連絡を取っていくことが必要である。事前に情報共有しておかないと利用者に対しても危険である。
- 佐々木  
お互いに危険である。安全第一のため、情報共有は必要。
- 柏木  
引き続き情報共有をお願いし、検討を進めていく。
- 大津  
道の真ん中で巣を作りそうな場合は、基本的には移動してもらうという方針のもと、気付いたら支庁なり村に直ぐに連絡していただくという共通理解でいいか。
- 一同  
異議なし

#### 4. その他

- 柏木  
以前行った現場視察の際に課題として上がっていた、上陸地点の利用上の問題点比較検討について、項目出し等意見を伺いたい。
- 佐々木  
利用頻度を入れた方がいい。
- 柏木  
モニタリング期間中のデータを入れ込む。
- 田中（裕）  
ラピエへの影響は入れるべきでは。
- 柏木  
（この場に限らず）7月中を目途に意見をいただきたい。
- 深澤  
保全の観点で、ラピエ以外にあれば教えてほしい。ないのであれば、ラピエを壊さずに使うことが目的となるのでは。ラピエと安全利用のバランスが課題となり、その2つの観点で話し合えば答えが出やすいのでは。

○佐々木

影響を受けるものはないのではと思う。陸産貝類には影響なさそう。基本的にはラピエをターゲットに絞った考えでいいかと思う。利用者観点、船の観点からの意見も聞いてみてはいかがか。

○石井（亮）

舳先を出してラピエにぶつけると崩れるため、クッション（タイヤ等）を付けている。接岸については、潮汐等の関係もあり、各船長が状況に応じて対応している。1か所に集約するよりは、分散している現在の形がいいのではと思う。集約するのであれば、必要最低限な人工物の設置も検討してもいいかと思う。ガイド委員会では、青灯台に作られているような階段状のものが意見として出ているが、どちらにせよ、人工物を検討するのであれば、ガイドの意見をしっかりと聞いてほしい。

○柏木

そもそも、出来ることなのか、本来誰がやるべきことなのか、独立基礎じゃないと岩が保たないのではないか、海流への影響はどうか、工事する船が鮫池に入るのか等々、様々な角度で考えなくてはならない。

○佐々木

現状の設備の時は、どのように行ったのか。

○柏木

和船で運んだ。

○持田

当時の話しだが、基礎を作るのは資機材を運ぶ手段がないから出来ないと言われた気がする。また、上陸地点に青灯台のような階段状のコンクリートを施工することは、技術的にも出来ないと言われたと記憶している。作業制限はあるので、実現可能な範囲で出来ることを考える必要がある。また、南島はエコツーリズムの目玉でもあるし、本案件はエコツーリズム協議会でやるべきだと思う。村としても都としても事業者としても受益者であり、継続的に利用する事は、お互い持ち寄って負担をして、長い間利益を享受する形にするべきだと思う。エコツーリズム協議会の会計は分担金で成り立っており、現在村しか負担していないが、関係機関が資金を持ち寄って、エコツーリズム協議会の会計で行うべきだと思う。だからこそ、みんなで集まって議論をしているのではないか。

○大津

既存の手すり、小笠原村で設置したものか？

○持田

そのとおり



○佐々木

当時上陸後の安全管理は議論されていたが、上陸時の安全管理は議論されていなかったことが反省点としてあげられる。IBO としても、エコツーリズム協議会の中で環境配慮という立場に関わっており、検討が必要な部分については汗をかきたいと思っている。

○大津

天然記念物的な許認可は、海中は問題ないのか。

○持田

南島の地形地質は地上部だけではなく海中にも連続して繋がっているため、海中にも天然記念物の規制がかかる。

○柏木

まずは地点の状況を整理し、利用の在り方含め検討していきたい。

○石井（亮）

先日の南島ドルフィンスイム委員会で出た話として、南島の村民利用について SUP・カヤック等、人力でいくのは大丈夫なのか。利用申請時許可を出す際に、どのような方法で行くのか、能力があるのか等、確認をした方がいいのでは。併せて、国有林課の入林許可をとっただけで申請を受けることについても、許可を出す上での審査等整理した方がいいのでは。また、調査等に係る従事者について、観光客からみて、調査員だとわかるような恰好・振る舞い等、気を付けていただきたい。

○永井

南島への入林は、ガイドとの同行を前提に許可している。

○柏木

村民利用については、一度整理してお伝えする。

○持田

自分も南島の東京都自然ガイド更新講習を定期的に受けているが、カヤックガイドの方に講師になってもらい実際にカヤック等で利用する際の注意点をレクチャーしてもらうなど実践に沿った楽しい講習にしていきたいと思う。

○佐々木

IBO としては、調査の際、判別しやすいようなユニフォーム着用、腕章装着等行っている。今後も、振る舞い等気を付けて取り組んでいく。

○石井（裕）

そもそも、南島の村民利用は必要なのか。自然ガイド同行じゃないと行けないようには出来ないのか。

- 柏木  
以前は自由に行けていた経緯を鑑みると、一概に駄目と言うのは難しい。
- 石井（裕）  
住民登録していない人が南島に行って、事故を起こす可能性がある行動をしているのは問題では。
- 柏木  
制度が始まった当時は、しっかりと知識のある人が行けなくならないようにしたのではと思う。
- 持田  
そういう対象の人たちが納得するような立ち位置で作られたと思う。それが既に必要なくなっているという意見ということか。
- 石井（裕）  
現状、短期バイト等の人達が講習を受けたからと言って、経験不明な中行ってしまう。
- 持田  
住民登録の年数で線引きすることは行政としては難しいが、そのような意見も踏まえ検討していくことも必要か。
- 大津  
南島への入島は、許可ではなく届出制度であり、村の方で良し悪しを判断する手続きではない。村民かどうかについては、入林許可証のみでの届出だったが、今後は身分証明書の提示を求める等整理する方向で考えている。訪島手段については、村民が利用できる制度なので自己責任と考え、手段は問わない。我々が出来ることとして、注意喚起についてしっかりと対応していく。
- 柏木  
届出制度の必要性については、改めて整理して考える必要があるのかと思う。
- 大津  
基本的には、根拠のない規制はしない考えであるが、色々な意見をお聞きして検討していきたいと思う。
- 永井  
村民講習は、基本住民登録している方だが、仕事等で来島されている方については、住所が証明できる方は講習可能としている。今後問題点等あれば、ご意見いただき検討していきたい。
- 柏木  
南島とそれ以外は、分けているのか。
- 永井  
分けていない。

○田中（裕）

東京都ガイド更新講習への提案があったが、東京都版エコツアーリズムが20年経つ中で、都が行っているガイド養成など、地元根付いた実施への移行をすることでガイド育成が充実されると考えているが、ご意見あれば伺いたい。

○佐々木

父母の指定ルートについて、村として積極的に関わっていくと聞いているが、そこに属島は含まれていないという認識でいいか。

○大津

含まれていない。

○佐々木

環境省への質問。陸貝の再導入に向けたプロジェクトが進んでいると聞いている。南島での活動に関して共有していただきたい。

○成田

環境省科学委員会下部のWGで、「チチジマカタマイマイ及びアナカタマイマイの個体群再生計画」を昨年度策定し、巽島で移殖を開始した。南島でも再導入を計画しているが、具体的なスケジュール等については、まだ決まっていな。今後進捗あったら共有させていただく。

○柏木

他にないようなので、本日の作業部会は終了とする。